

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／資産複合	
信託期間	2013年5月23日から2024年11月14日までです。	
運用方針	インフラ関連好配当資産マザーファンド（以下、「マザーファンド」といいます。）を通じて、主として、わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）の株式等および不動産投資信託証券（以下、「J-R E I T」といいます。）に投資を行い、安定した収益の確保と投資信託財産の着実な成長を目指して運用を行います。 マザーファンドにおける銘柄選択ならびに資産配分に関して、りそなアセットマネジメント株式会社の投資助言を受けます。外国為替予約取引等は行いません。	
主要投資対象	当ファンド	マザーファンドの受益証券を主要投資対象とします。
	インフラ関連好配当資産マザーファンド	わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）の株式等およびJ-R E I Tを主要投資対象とします。
投資制限	当ファンド	マザーファンドの受益証券への投資割合には制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。
	インフラ関連好配当資産マザーファンド	株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への投資割合には制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	毎月14日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、原則として以下の方針に基づき、収益分配を行います。 分配対象収益の範囲は、繰越分を含めた経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。繰越分を含めた経費控除後の配当等収益には、マザーファンドの配当等収益のうち、投資信託財産に帰属すべき配当等収益を含むものとします。 分配金額は、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案して決定します。分配可能額が少額の場合や基準価額水準によっては、収益分配を行わないことがあります。	

## 運用報告書（全体版）

### インフラ関連好配当資産ファンド （毎月決算型）（円投資型） （愛称 インフラ・ザ・ジャパン（円投資型））

第109期（決算日 2022年6月14日） 第112期（決算日 2022年9月14日）  
第110期（決算日 2022年7月14日） 第113期（決算日 2022年10月14日）  
第111期（決算日 2022年8月15日） 第114期（決算日 2022年11月14日）

#### 受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

皆様の「インフラ関連好配当資産ファンド（毎月決算型）（円投資型）（愛称 インフラ・ザ・ジャパン（円投資型）」は、2022年11月14日に第114期決算を迎えましたので、過去6ヵ月間（第109期～第114期）の運用状況ならびに決算のご報告を申し上げます。

今後とも、一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。



〒104-0031 東京都中央区京橋2-2-1

お問い合わせは弊社営業部 セールスサポートグループへ  
フリーダイヤル ☎ 0120-048-214（営業日の9:00～17:00）

[ホームページ]

<https://www.okasan-am.jp>

※アクセスにかかる通信料はお客様のご負担となります。

○最近30期の運用実績

決 算 期	基 準 (分配落)	価 額			合 成 指 数 (参考指数)	指 数 期 騰 落 中 率	株 式 組 入 比 率	投 資 信 託 組 入 比 率	純 資 産 総 額
		税 分	込 配	み 金					
	円	円	円	%	ポイント	%	%	%	百万円
85期(2020年6月15日)	9,601		40	4.0	156.14	4.6	42.4	53.2	4,072
86期(2020年7月14日)	9,923		40	3.8	159.83	2.4	47.5	48.9	4,173
87期(2020年8月14日)	10,189		40	3.1	163.95	2.6	48.1	47.7	4,276
88期(2020年9月14日)	10,174		40	0.2	166.59	1.6	47.9	48.3	4,250
89期(2020年10月14日)	10,375		40	2.4	168.24	1.0	51.5	44.0	4,322
90期(2020年11月16日)	10,448		40	1.1	171.29	1.8	52.8	43.0	4,293
91期(2020年12月14日)	10,644		40	2.3	175.99	2.7	42.6	53.5	4,317
92期(2021年1月14日)	11,131		40	5.0	183.03	4.0	53.3	42.8	4,428
93期(2021年2月15日)	11,682		40	5.3	196.48	7.3	48.7	48.4	4,495
94期(2021年3月15日)	11,676		40	0.3	198.11	0.8	52.1	44.1	4,396
95期(2021年4月14日)	12,034		40	3.4	203.86	2.9	42.2	53.4	4,452
96期(2021年5月14日)	11,695		40	△2.5	198.23	△2.8	42.1	53.2	4,279
97期(2021年6月14日)	12,253		40	5.1	209.95	5.9	41.7	54.4	4,448
98期(2021年7月14日)	12,374		40	1.3	211.85	0.9	42.2	54.1	4,451
99期(2021年8月16日)	12,125		40	△1.7	207.97	△1.8	43.0	52.8	4,297
100期(2021年9月14日)	12,664		40	4.8	219.00	5.3	45.0	51.1	4,413
101期(2021年10月14日)	12,027		40	△4.7	209.87	△4.2	51.2	43.8	4,156
102期(2021年11月15日)	12,278		40	2.4	212.76	1.4	53.2	43.0	4,195
103期(2021年12月14日)	11,988		40	△2.0	207.88	△2.3	42.7	52.9	4,052
104期(2022年1月14日)	11,912		40	△0.3	206.37	△0.7	43.1	52.2	3,978
105期(2022年2月14日)	11,459		40	△3.5	199.20	△3.5	52.9	42.5	3,813
106期(2022年3月14日)	11,086		40	△2.9	192.36	△3.4	50.7	43.9	3,669
107期(2022年4月14日)	11,597		40	5.0	205.44	6.8	50.4	44.0	3,771
108期(2022年5月16日)	11,477		40	△0.7	202.01	△1.7	42.4	52.7	3,722
109期(2022年6月14日)	11,443		40	0.1	201.66	△0.2	42.4	51.9	3,683
110期(2022年7月14日)	11,472		40	0.6	204.38	1.3	42.1	53.0	3,673
111期(2022年8月15日)	11,858		40	3.7	212.95	4.2	43.2	53.6	3,842
112期(2022年9月14日)	11,760		40	△0.5	211.04	△0.9	42.4	53.0	3,775
113期(2022年10月14日)	11,284		40	△3.7	203.70	△3.5	43.6	52.4	3,611
114期(2022年11月14日)	11,631		40	3.4	209.64	2.9	52.2	42.6	3,696

(注) 基準価額および分配金（税引前）は1万円当たり、基準価額の騰落率は分配金（税引前）込み。

(注) 合成指数は当ファンドの参考指数であり、ベンチマークではありません。合成指数は、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）50%および東証REIT指数（配当込み）50%を合成したものです。

(注) 当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、株式組入比率および投資信託証券組入比率は実質比率を記載しております。

○当作成期中の基準価額と市況等の推移

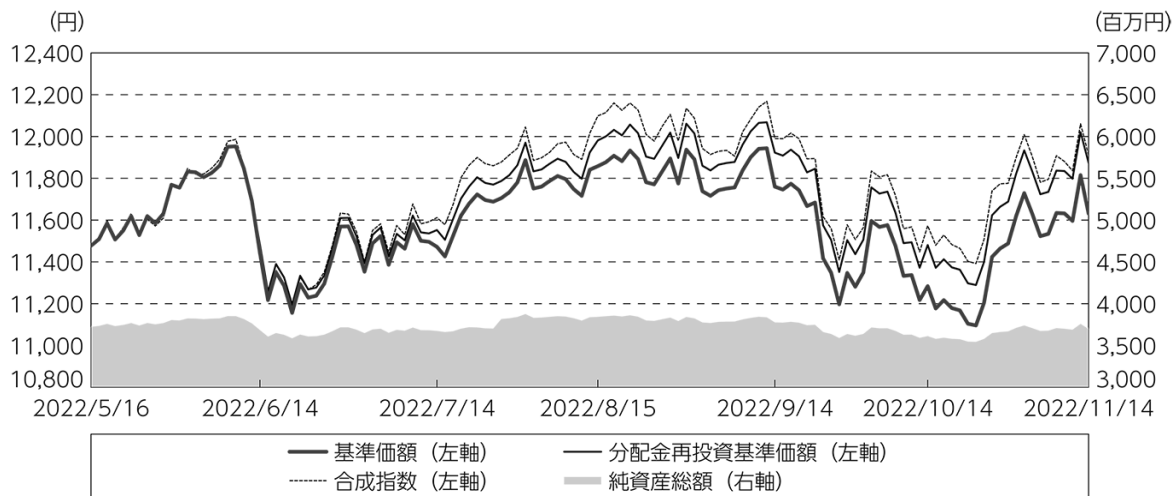
決 算 期	年 月 日	基 準 価 額		合 成 指 数		株 組 入 比 率	投 資 信 託 組 入 比 率
		騰 落 率	騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
第109期	(期 首) 2022年5月16日	円 11,477	% —	ポイント 202.01	% —	% 42.4	% 52.7
	5 月 末	11,755	2.4	207.00	2.5	42.7	52.6
	(期 末) 2022年6月14日	11,483	0.1	201.66	△0.2	42.4	51.9
第110期	(期 首) 2022年6月14日	11,443	—	201.66	—	42.4	51.9
	6 月 末	11,481	0.3	203.19	0.8	41.9	53.0
	(期 末) 2022年7月14日	11,512	0.6	204.38	1.3	42.1	53.0
第111期	(期 首) 2022年7月14日	11,472	—	204.38	—	42.1	53.0
	7 月 末	11,780	2.7	210.22	2.9	41.9	52.7
	(期 末) 2022年8月15日	11,898	3.7	212.95	4.2	43.2	53.6
第112期	(期 首) 2022年8月15日	11,858	—	212.95	—	43.2	53.6
	8 月 末	11,891	0.3	212.76	△0.1	43.1	53.7
	(期 末) 2022年9月14日	11,800	△0.5	211.04	△0.9	42.4	53.0
第113期	(期 首) 2022年9月14日	11,760	—	211.04	—	42.4	53.0
	9 月 末	11,281	△4.1	202.54	△4.0	41.6	53.9
	(期 末) 2022年10月14日	11,324	△3.7	203.70	△3.5	43.6	52.4
第114期	(期 首) 2022年10月14日	11,284	—	203.70	—	43.6	52.4
	10 月 末	11,620	3.0	209.46	2.8	42.8	52.2
	(期 末) 2022年11月14日	11,671	3.4	209.64	2.9	52.2	42.6

(注) 期末基準価額は1万口当たり分配金（税引前）込み、騰落率は期首比。

## 運用経過

### 作成期間中の基準価額等の推移

（2022年5月17日～2022年11月14日）



第109期首：11,477円

第114期末：11,631円（既払分配金（税引前）：240円）

騰落率： 3.5%（分配金再投資ベース）

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 参考指数は、合成指数です。
- (注) 分配金再投資基準価額および参考指数は、作成期首（2022年5月16日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

## ○基準価額の主な変動要因

当ファンドの主要投資対象である「インフラ関連好配当資産マザーファンド（以下、マザーファンドといいます。）」における基準価額の主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

### （主なプラス要因）

#### （国内株式）

・三井物産、東京海上ホールディングス、日立製作所などへの投資。

#### （J－REIT）

・ヘルスケア&メディカル投資法人、オリックス不動産投資法人、ユナイテッド・アーバン投資法人などへの投資。

### （主なマイナス要因）

#### （国内株式）

・日本郵船、オリックス、ヤマトホールディングスなどへの投資。

#### （J－REIT）

・G L P投資法人、産業ファンド投資法人、日本ビルファンド投資法人などへの投資。

## 投資環境

（2022年5月17日～2022年11月14日）

国内株式市場は上昇しました。2022年6月上旬にかけては、中国の都市封鎖（ロックダウン）緩和による景気回復期待などから上昇しました。しかし、6月中旬に公表された米消費者物価指数（C P I）が市場予想を上回り、金融引き締め強化懸念から急落しました。その後は、国内上場企業の4－6月期決算が事前予想を上回ったことや、米長期金利の上昇に一服感が見られたことから8月中旬にかけて再び上昇に転じました。しかし米C P Iが根強い物価上昇圧力を示しており、同国の金融当局が物価安定のために金融引き締めに対して積極姿勢を示したことから再び下落しました。10月中旬以降は、米国のインフレがピークアウトし、12月以降の利上げ幅が縮小するとの見方が優勢になり、底堅く推移しました。

J－REIT市場は、行動制限緩和による大型連休中の旅行需要や個人消費の回復期待が高まったことや、長期金利の上昇に一服感が見られたことから上昇して始まりました。しかし2022年6月に発表された米C P Iの伸び率が市場予想を上回り、金融引き締め強化懸念から、J－REITも大きく下落しました。その後は債券や株式市場でボラティリティ（変動率）が低下して投資家のリスク志向が回復したことなどから8月上旬にかけて上昇し、9月中旬にかけてはもみ合う展開となりました。しかし9月下旬から米国を中心に再び長期金利が上昇したことや、複数の銘柄が公募増資を発表し短期的に需給が悪化したことから10月下旬にかけてJ－REITはまた大きく下落しました。ただ作成期末にかけては米国の利上げペース鈍化観測や急落後の反動などから下げ幅を縮小しました。

## 当ファンドのポートフォリオ

（2022年5月17日～2022年11月14日）

国内株式およびJ－REITの運用はマザーファンドを通じて行いました。マザーファンドの運用につきましては、銘柄選択ならびに資産配分に関して、りそなアセットマネジメント株式会社の投資助言を受けました。

資産配分に関しては、作成期初から10月までは株式への投資比率をJ－REIT比で低めとし、11月から作成期末にかけては高めとしました。

国内株式では、引き続き経済や社会の基盤を担い、長期にわたって安定的な成長を期待できる企業に注目しました。その中でも特に再生可能エネルギーに関連する銘柄に注目し、建設株や電気機器株を組み入れました。また、経済活動の正常化に伴い、人流の増加や沿線の不動産施設の業績の回復が見込まれることから、陸運株を組み入れました。一方、主要国での景気悪化による需要鈍化が懸念された海運株や、業績が想定を下回ることが懸念された輸送用機器株や証券株などを売却しました。

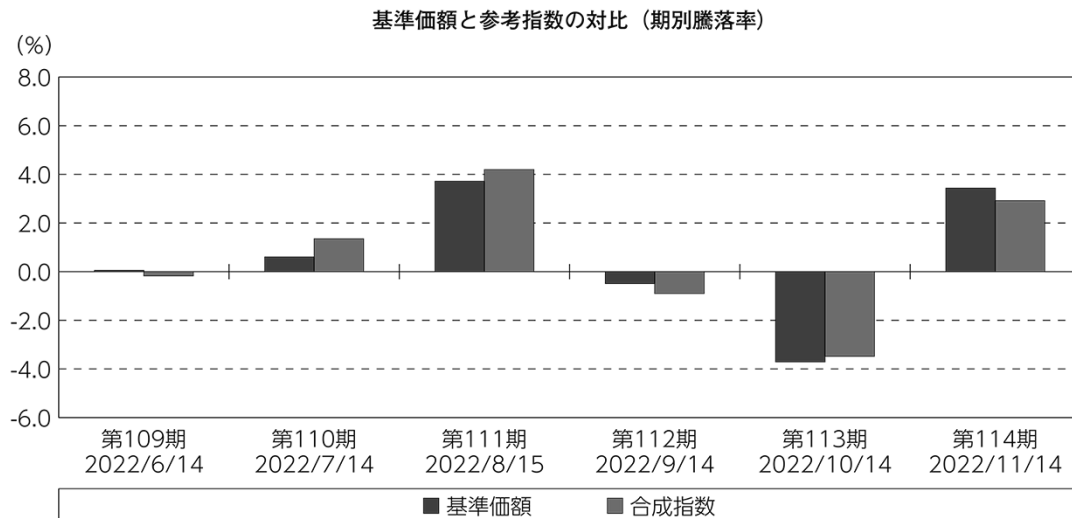
J－REITでは、相対的に高水準の配当金の確保を図りつつ、長期的な値上がり益の確保を目指して運用を行いました。経済活動の正常化に伴い、収益率や稼働率の回復が見込まれる総合型リート銘柄を組み入れました。一

方、収益力の格差が懸念されたオフィス系リート銘柄は銘柄数を絞り込みました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

（2022年5月17日～2022年11月14日）

当ファンドは特定のベンチマークを設けておりませんが、分配金も考慮した当ファンドの基準価額の騰落率は、参考指数（東証株価指数（TOPIX）（配当込み）50%および東証REIT指数（配当込み）50%を合成した指数）の騰落率を0.3%下回りました。詳細につきましては、前掲の「基準価額の主な変動要因」をご参照ください。



（注）基準価額の騰落率は分配金（税引前）込みです。

（注）参考指数は、合成指数です。

## 分配金

（2022年5月17日～2022年11月14日）

当ファンドは、毎月14日（休業日の場合は翌営業日）に決算を行い、委託会社が分配可能額、基準価額水準等を勘案して分配金額を決定します。

当作成期中につきましては、第109期、第110期、第111期、第112期、第113期、第114期の決算時にそれぞれ1万円当たり40円（税引前）、合計240円（税引前）の分配を行いました。なお、収益分配に充てなかった留保益につきましては、運用の基本方針と同一の運用を行ってまいります。

（単位：円、1万円当たり・税引前）

項 目	第109期	第110期	第111期	第112期	第113期	第114期
	2022年5月17日～ 2022年6月14日	2022年6月15日～ 2022年7月14日	2022年7月15日～ 2022年8月15日	2022年8月16日～ 2022年9月14日	2022年9月15日～ 2022年10月14日	2022年10月15日～ 2022年11月14日
当期分配金 (対基準価額比率)	40 0.348%	40 0.347%	40 0.336%	40 0.339%	40 0.353%	40 0.343%
当期の収益	3	17	24	21	40	10
当期の収益以外	36	22	15	18	—	29
翌期繰越分配対象額	2,633	2,611	2,596	2,577	2,598	2,569

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

## 今後の運用方針

国内株式市場は、レンジ内での推移が継続すると考えます。米国における根強いインフレ圧力や米連邦準備制度理事会（FRB）による徹底した金融引き締めは、株価に織り込まれてきたと考えています。米国の実際の景気や企業業績については、少しずつ悪化を示すニュースも増えてきた印象ですが、大幅な悪化を見るまでは株価は大きくは下がらないと思われれます。そのような環境下、良好な株式需給環境、割安感、底堅い国内景気などにより、国内株の下値は支えられるとみています。2023年の年明け以降については、欧米の景気・企業業績の悪化スピードと、インフレ率の低下スピードの競争になるとみており、どちらが先行するかで、値動きの大きい展開を予想します。

J-REIT市場は、レンジ内での推移が続くと予想します。J-REITの業績は、物流や住宅は比較的安定しており、ホテルや商業施設では人流回復による改善が期待できるものの、オフィスの業績回復には時間がかかると思われる、全体では小幅な改善にとどまると考えます。一方世界的な金利上昇懸念がJ-REITの上値を抑える場面もあると考えます。ただ株式などリスク資産と比較して業績悪化幅は限定的と見られるため下落時には利回りを求める資金の流入が期待され、下落余地も限定的と考えます。

引き続き銘柄選択ならびに資産配分に関して、りそなアセットマネジメント株式会社の投資助言を受けます。

○ 1万口当たりの費用明細

（2022年5月17日～2022年11月14日）

項 目	第109期～第114期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	93	0.795	(a) 信託報酬＝作成期間中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	( 45)	(0.384)	委託した資金の運用の対価
（ 販 売 会 社 ）	( 45)	(0.384)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価
（ 受 託 会 社 ）	( 3)	(0.027)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	7	0.063	(b) 売買委託手数料＝作成期間中の売買委託手数料÷作成期間中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 株 式 ）	( 4)	(0.031)	
（ 投 資 信 託 証 券 ）	( 4)	(0.032)	
(c) そ の 他 費 用	1	0.006	(c) その他費用＝作成期間中のその他費用÷作成期間中の平均受益権口数
（ 監 査 費 用 ）	( 1)	(0.005)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	( 0)	(0.000)	その他は、金銭信託支払手数料
合 計	101	0.864	
作成期間中の平均基準価額は、11,634円です。			

(注) 作成期間中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 売買委託手数料およびその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

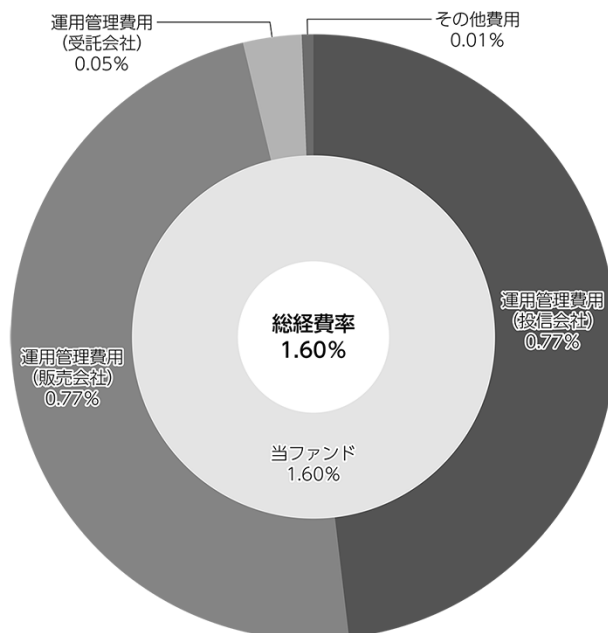
(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。



（参考情報）

○総経費率

作成期間中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間中の平均受益権口数に作成期間中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.60%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

## ○売買及び取引の状況

（2022年5月17日～2022年11月14日）

### 親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘柄	第109期～第114期			
	設定		解約	
	口数	金額	口数	金額
インフラ関連好配当資産マザーファンド	千口 67,694	千円 109,885	千口 179,297	千円 290,392

（注）単位未満は切捨て。

## ○株式売買比率

（2022年5月17日～2022年11月14日）

### 株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	第109期～第114期	
	インフラ関連好配当資産マザーファンド	
(a) 当作成期中の株式売買金額	5,411,421千円	
(b) 当作成期中の平均組入株式時価総額	6,478,562千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.83	

（注）(b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

## ○利害関係人との取引状況等

（2022年5月17日～2022年11月14日）

### 利害関係人との取引状況

<インフラ関連好配当資産ファンド（毎月決算型）（円投資型）（愛称 インフラ・ザ・ジャパン（円投資型））>  
該当事項はございません。

### <インフラ関連好配当資産マザーファンド>

区分	第109期～第114期					
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
	百万円	百万円	%	百万円	百万円	%
株式	3,284	576	17.5	2,126	498	23.4
投資信託証券	2,242	19	0.8	3,570	364	10.2

平均保有割合 24.5%

※平均保有割合とは、マザーファンドの残存口数の合計に対する当該ベビーファンドのマザーファンド所有口数の割合。

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	第109期～第114期
売買委託手数料総額 (A)	2,360千円
うち利害関係人への支払額 (B)	313千円
(B) / (A)	13.3%

(注) 売買委託手数料総額は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは岡三証券です。

○組入資産の明細

(2022年11月14日現在)

親投資信託残高

銘 柄	第108期末	第114期末	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
インフラ関連好配当資産マザーファンド	2,343,461	2,231,858	3,666,720

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2022年11月14日現在)

項 目	第114期末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
インフラ関連好配当資産マザーファンド	3,666,720	98.6
コール・ローン等、その他	50,992	1.4
投資信託財産総額	3,717,712	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	第109期末	第110期末	第111期末	第112期末	第113期末	第114期末
	2022年6月14日現在	2022年7月14日現在	2022年8月15日現在	2022年9月14日現在	2022年10月14日現在	2022年11月14日現在
	円	円	円	円	円	円
(A) 資産	3,704,249,436	3,696,987,469	3,879,833,815	3,803,004,070	3,630,279,362	3,717,712,736
コール・ローン等	52,214,597	55,857,979	68,931,751	52,014,584	50,469,889	50,992,492
インフラ関連好配当資産マザーファンド(評価額)	3,652,034,839	3,641,129,490	3,810,902,064	3,743,084,686	3,579,809,473	3,666,720,244
未収入金	—	—	—	7,904,800	—	—
(B) 負債	20,490,350	23,182,617	37,634,792	27,185,552	18,861,313	20,715,185
未払収益分配金	12,876,950	12,809,611	12,960,354	12,842,576	12,801,930	12,713,910
未払解約金	2,783,636	5,545,242	19,357,695	9,300,331	1,181,196	3,021,758
未払信託報酬	4,796,405	4,794,342	5,280,201	5,007,814	4,844,438	4,945,059
未払利息	54	34	57	63	63	68
その他未払費用	33,305	33,388	36,485	34,768	33,686	34,390
(C) 純資産総額(A-B)	3,683,759,086	3,673,804,852	3,842,199,023	3,775,818,518	3,611,418,049	3,696,997,551
元本	3,219,237,613	3,202,402,991	3,240,088,737	3,210,644,023	3,200,482,534	3,178,477,608
次期繰越損益金	464,521,473	471,401,861	602,110,286	565,174,495	410,935,515	518,519,943
(D) 受益権総口数	3,219,237,613口	3,202,402,991口	3,240,088,737口	3,210,644,023口	3,200,482,534口	3,178,477,608口
1万口当たり基準価額(C/D)	11,443円	11,472円	11,858円	11,760円	11,284円	11,631円

(注) 計算期間末における1口当たりの純資産額は、第109期1,1443円、第110期1,1472円、第111期1,1858円、第112期1,1760円、第113期1,1284円、第114期1,1631円です。

(注) 当ファンドの第109期首元本額は3,243,586,940円、第109～114期中追加設定元本額は118,079,815円、第109～114期中一部解約元本額は183,189,147円です。

## ○損益の状況

項 目	第109期	第110期	第111期	第112期	第113期	第114期
	2022年5月17日～ 2022年6月14日	2022年6月15日～ 2022年7月14日	2022年7月15日～ 2022年8月15日	2022年8月16日～ 2022年9月14日	2022年9月15日～ 2022年10月14日	2022年10月15日～ 2022年11月14日
	円	円	円	円	円	円
(A) 配当等収益	△ 931	△ 863	△ 690	△ 1,189	△ 1,313	△ 1,469
受取利息	95	—	33	—	—	—
支払利息	△ 1,026	△ 863	△ 723	△ 1,189	△ 1,313	△ 1,469
(B) 有価証券売買損益	6,863,276	26,950,373	141,355,330	△ 13,502,750	△ 134,715,660	128,072,456
売買益	7,504,409	27,228,653	142,376,176	319,622	245,510	128,799,732
売買損	△ 641,133	△ 278,280	△ 1,020,846	△ 13,822,372	△ 134,961,170	△ 727,276
(C) 信託報酬等	△ 4,829,570	△ 4,827,659	△ 5,316,744	△ 5,042,502	△ 4,878,063	△ 4,979,331
(D) 当期損益金(A+B+C)	2,032,775	22,121,851	136,037,896	△ 18,546,441	△ 139,595,036	123,091,656
(E) 前期繰越損益金	15,022,131	4,153,072	13,210,452	134,707,969	102,883,830	△ 49,128,749
(F) 追加信託差損益金	460,343,517	457,936,549	465,822,292	461,855,543	460,448,651	457,270,946
(配当等相当額)	( 509,564,120)	( 507,148,091)	( 523,221,012)	( 519,507,772)	( 518,193,881)	( 514,930,979)
(売買損益相当額)	(△ 49,220,603)	(△ 49,211,542)	(△ 57,398,720)	(△ 57,652,229)	(△ 57,745,230)	(△ 57,660,033)
(G) 計(D+E+F)	477,398,423	484,211,472	615,070,640	578,017,071	423,737,445	531,233,853
(H) 収益分配金	△ 12,876,950	△ 12,809,611	△ 12,960,354	△ 12,842,576	△ 12,801,930	△ 12,713,910
(I) 当期繰越損益金(G+H)	464,521,473	471,401,861	602,110,286	565,174,495	410,935,515	518,519,943
追加信託差損益金	460,343,517	457,936,549	465,822,292	461,855,543	460,448,651	457,270,946
(配当等相当額)	( 509,566,945)	( 507,152,586)	( 523,468,584)	( 519,515,751)	( 518,215,724)	( 514,933,199)
(売買損益相当額)	(△ 49,223,428)	(△ 49,216,037)	(△ 57,646,292)	(△ 57,660,208)	(△ 57,767,073)	(△ 57,662,253)
分配準備積立金	338,313,744	329,040,316	317,764,684	308,071,872	313,465,252	301,713,311
繰越損益金	△ 334,135,788	△ 315,575,004	△ 181,476,690	△ 204,752,920	△ 362,978,388	△ 240,464,314

(注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定した価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 収益分配金

決算期	第109期	第110期	第111期	第112期	第113期	第114期
(a) 配当等収益(費用控除後)	1,264,059円	5,551,260円	7,912,529円	6,833,699円	19,492,742円	3,395,491円
(b) 有価証券等損益額(費用控除後、繰越欠損金補填後)	0円	0円	0円	0円	0円	0円
(c) 信託約款に規定する収益調整金	509,566,945円	507,152,586円	523,468,584円	519,515,751円	518,215,724円	514,933,199円
(d) 信託約款に規定する分配準備積立金	349,926,635円	336,298,667円	322,812,509円	314,080,749円	306,774,440円	311,031,730円
分配対象収益(a+b+c+d)	860,757,639円	849,002,513円	854,193,622円	840,430,199円	844,482,906円	829,360,420円
分配対象収益(1万口当たり)	2,673円	2,651円	2,636円	2,617円	2,638円	2,609円
分配金額	12,876,950円	12,809,611円	12,960,354円	12,842,576円	12,801,930円	12,713,910円
分配金額(1万口当たり)	40円	40円	40円	40円	40円	40円

**用語解説**

○資産、負債、元本及び基準価額の状況は、期末における資産、負債、元本及び基準価額の計算過程を表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
<b>資産</b>	ファンドが保有する財産の合計です。
コール・ローン等	金融機関向けの安全性の高い短期貸付運用などの残高です。
各種有価証券等（評価額）	組入れた株式・債券・ファンドなどの評価金額です。
未収入金	入金が予定されている有価証券の売却代金などです。
未収配当金	入金が予定されている株式の配当金等です。
未収利息	入金が予定されているコール・ローン等の利息や債券の利息の合計です。
<b>負債</b>	支払いが予定されている金額の合計です。
未払収益分配金	期末時点で支払いが予定されている収益分配金です。
未払解約金	支払いが予定されている解約金です。
未払信託報酬	支払いが予定されている信託報酬の額です。
その他未払費用	支払いが予定されている監査費用、その他の費用です。
<b>純資産総額（資産－負債）</b>	ファンドが保有する財産の合計から支払いが予定されている金額の合計を差し引いたものです。
元本	ファンド全体の元本残高です。
次期繰越損益金	純資産総額と元本の差額（翌期に繰り越す損益金の合計額）です。
<b>受益権総口数</b>	受益者が保有する受益権口数の合計です。
1(万)口当たり基準価額	1(万)口当たりのファンドの時価です。

**用語解説**

○損益の状況は、期中にファンドがどのような収益や損失を計上したかを表しています。主な項目の説明は次の通りです。

項目	説明
<b>配当等収益</b>	ファンドが受取った配当金・利息等の合計です。
受取配当金	保有する株式等の配当金等です。
受取利息	債券、コール・ローン等の利息等です。
<b>有価証券売買損益</b>	有価証券の売買損益と期末の評価損益の合計額です。
売買益	売買益と期末評価益の合計です。
売買損	売買損と期末評価損の合計です。
<b>信託報酬等</b>	信託報酬のほか保管費用、監査費用、その他の費用と、それに掛かる消費税等相当額です。
<b>当期損益金</b>	当期における収支合計です。
<b>前期繰越損益金</b>	前期分の分配準備積立金と繰越損益金の合計額から当期中の解約に対する持分を控除した金額です。
<b>追加信託差損益金</b>	受益者がファンドに払い込んだ金額と元本との差額です。
（配当等相当額）	配当等に相当する額です。
（売買損益相当額）	売買損益に相当する額です。
<b>計</b>	収益分配前の期中の収支の総合計です。
<b>収益分配金</b>	期中の分配可能額から受益者に支払われる分配金です。
<b>次期繰越損益金</b>	翌期に繰り越す損益金の合計です。
追加信託差損益金	翌期に繰り越す追加信託差損益金です。
（配当等相当額）	配当等に相当する額です。
（売買損益相当額）	売買損益に相当する額です。
<b>分配準備積立金</b>	翌期に繰り越す分配準備積立金の額です。
<b>繰越損益金</b>	翌期に繰り越す損益金の額です。

## ○分配金のお知らせ

	第109期	第110期	第111期	第112期	第113期	第114期
1 万口当たり分配金（税引前）	40円	40円	40円	40円	40円	40円
支払開始日	各決算日から起算して5営業日までの間に支払いを開始します。					
お支払場所	取得申込みを取扱った販売会社の本店					

### <お知らせ>

該当事項はございません。

○（参考情報）親投資信託の組入資産の明細

（2022年11月14日現在）

<インフラ関連好配当資産マザーファンド>

下記は、インフラ関連好配当資産マザーファンド全体(9,208,504千口)の内容です。

国内株式

銘柄	第108期末		第114期末	
	株数	株数	評価額	評価額
	千株	千株	千円	千円
<b>建設業 (4.3%)</b>				
ウエストホールディングス	18.7	35.3	162,380	
ショーボンドホールディングス	23.8	24.5	140,385	
東鉄工業	—	15.9	37,476	
エクシオグループ	30	—	—	
<b>化学 (9.7%)</b>				
信越化学工業	18	25.3	438,196	
積水化学工業	55.6	63.5	120,015	
富士フイルムホールディングス	22.7	28.9	215,189	
<b>機械 (8.0%)</b>				
SMC	2.6	3.3	224,169	
クボタ	29.5	—	—	
ダイキン工業	4.8	10.6	246,821	
IHI	—	47.4	161,397	
<b>電気機器 (17.7%)</b>				
イビデン	13.4	15.7	89,019	
日立製作所	54.1	58.2	417,585	
富士電機	45.2	54.7	324,371	
横河電機	—	63.2	158,821	
キーエンス	3.7	4.2	253,428	
ローム	14.2	15	164,700	
<b>輸送用機器 (6.4%)</b>				
豊田自動織機	24.9	—	—	
デンソー	20.7	32	241,536	
いすゞ自動車	43	158	270,180	
<b>陸運業 (11.9%)</b>				
阪急阪神ホールディングス	—	44.6	182,414	
京阪ホールディングス	58.1	82.3	284,758	
ヤマトホールディングス	107.1	71.5	166,023	
センコーグループホールディングス	295.4	316.9	317,533	
<b>海運業 (—%)</b>				
日本郵船	13.2	—	—	

銘柄	第108期末		第114期末	
	株数	株数	評価額	評価額
	千株	千株	千円	千円
<b>情報・通信業 (12.6%)</b>				
NECネットエスアイ	73.4	98.8	165,687	
野村総合研究所	34.8	47.6	159,222	
オービック	8.5	8.8	194,920	
電通国際情報サービス	26.3	25.9	123,154	
日本電信電話	85	96.2	363,636	
<b>卸売業 (9.2%)</b>				
伊藤忠商事	49.8	61.4	258,678	
豊田通商	27.9	39.4	202,910	
三井物産	82.7	71.7	273,678	
<b>小売業 (2.4%)</b>				
日本瓦斯	69.5	91.1	194,134	
<b>銀行業 (6.0%)</b>				
三菱UFJフィナンシャル・グループ	386.4	337.7	237,504	
三井住友フィナンシャルグループ	49.8	56.6	242,757	
<b>証券、商品先物取引業 (—%)</b>				
大和証券グループ本社	204.5	—	—	
<b>保険業 (4.1%)</b>				
東京海上ホールディングス	37.3	117	326,137	
<b>その他金融業 (1.5%)</b>				
オリックス	68.7	54.1	114,475	
<b>不動産業 (6.2%)</b>				
東急不動産ホールディングス	144.6	260.7	188,225	
シーアールイー	60.9	57.9	85,923	
三井不動産	72.5	82.9	219,477	
合計	株数・金額	2,381	2,678	7,966,921
	銘柄数<比率>	38	37	<52.7%>

(注) 銘柄欄の( )内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。  
 (注) 合計欄の< >内は、当ファンドが組み入れているマザーファンドの純資産総額に対する評価額の比率。  
 (注) 評価額の単位未満は切捨て。



国内投資信託証券

銘柄	第108期末		第114期末	
	口数	口数	評価額	比率
	口	口	千円	%
エスコンジャパンリート投資法人 投資証券	461	—	—	—
サンケイリアルエステート投資法人 投資証券	223	—	—	—
S O S i L A 物流リート投資法人 投資証券	588	592	81,814	0.5
東海道リート投資法人 投資証券	84	410	49,528	0.3
日本アコモデーションファンド投資法人 投資証券	359	100	62,400	0.4
森ヒルズリート投資法人 投資証券	1,187	1,135	179,443	1.2
産業ファンド投資法人 投資証券	558	1,027	162,984	1.1
アドバンス・レジデンス投資法人 投資証券	668	418	142,538	0.9
ケネディクス・レジデンシャル・ネクスト投資法人 投資証券	870	704	149,881	1.0
アクティビア・プロパティーズ投資法人 投資証券	—	479	203,335	1.3
G L P 投資法人 投資証券	2,312	2,082	323,959	2.1
コンフォリア・レジデンシャル投資法人 投資証券	304	—	—	—
日本プロロジスリート投資法人 投資証券	1,270	847	282,474	1.9
星野リゾート・リート投資法人 投資証券	196	169	115,596	0.8
O n e リート投資法人 投資証券	271	—	—	—
イオンリート投資法人 投資証券	1,226	1,404	221,410	1.5
ヒューリックリート投資法人 投資証券	826	—	—	—
日本リート投資法人 投資証券	319	—	—	—
ケネディクス商業リート投資法人 投資証券	493	307	81,907	0.5
ヘルスケア&メディカル投資法人 投資証券	917	223	42,169	0.3
サムティ・レジデンシャル投資法人 投資証券	659	599	70,382	0.5
野村不動産マスターファンド投資法人 投資証券	2,489	2,327	389,539	2.6
ラサールロジポート投資法人 投資証券	625	872	143,880	1.0
スターアジア不動産投資法人 投資証券	1,517	—	—	—
三井不動産ロジスティクスパーク投資法人 投資証券	302	336	169,008	1.1
三菱地所物流リート投資法人 投資証券	253	242	111,078	0.7
C R E ロジスティクスファンド投資法人 投資証券	355	533	107,985	0.7
ザイマックス・リート投資法人 投資証券	120	—	—	—
日本ビルファンド投資法人 投資証券	812	699	452,253	3.0
ジャパンリアルエステイト投資法人 投資証券	528	610	367,830	2.4
日本都市ファンド投資法人 投資証券	2,959	1,557	164,886	1.1
オリックス不動産投資法人 投資証券	1,759	1,402	261,753	1.7
日本プライムリアルティ投資法人 投資証券	328	543	209,869	1.4
N T T 都市開発リート投資法人 投資証券	829	—	—	—
東急リアル・エステート投資法人 投資証券	682	529	109,344	0.7
ユナイテッド・アーバン投資法人 投資証券	1,626	1,606	246,039	1.6
インヴィンシブル投資法人 投資証券	2,042	—	—	—
フロンティア不動産投資法人 投資証券	415	457	234,898	1.6
平和不動産リート投資法人 投資証券	895	741	114,262	0.8
福岡リート投資法人 投資証券	740	866	145,314	1.0
ケネディクス・オフィス投資法人 投資証券	322	543	181,633	1.2
いちごオフィスリート投資法人 投資証券	772	—	—	—
スターツプロシード投資法人 投資証券	202	521	120,715	0.8
大和ハウスリート投資法人 投資証券	1,154	1,127	343,171	2.3
ジャパン・ホテル・リート投資法人 投資証券	2,969	2,330	168,459	1.1

インフラ関連好配当資産ファンド（毎月決算型）（円投資型）（愛称 インフラ・ザ・ジャパン（円投資型））

銘柄	第108期末		第114期末	
	口数	口数	評価額	比率
	口	口	千円	%
大和証券リビング投資法人 投資証券	1,553	1,724	202,570	1.3
タカラレーベン・インフラ投資法人 投資証券	361	—	—	—
いちごグリーンインフラ投資法人 投資証券	293	293	20,978	0.1
カナディアン・ソーラー・インフラ投資法人 投資証券	503	472	60,132	0.4
合計	口数・金額	口数	評価額	比率
	41,196	30,826	6,495,429	
	銘柄数<比率>	37	<42.9%>	

(注) 合計欄の< >内は、当ファンドが組み入れているマザーファンドの純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

インフラ関連好配当資産マザーファンド  
第8期 運用状況のご報告  
決算日：2022年5月16日

当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	主として、わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）の株式等および不動産投資信託証券（以下、「J-REIT」といいます。）に投資を行い、安定した収益の確保と投資信託財産の着実な成長を目指して運用を行います。
主要投資対象	わが国の金融商品取引所上場（上場予定を含みます。）の株式等およびJ-REITを主要投資対象とします。
投資制限	株式（新株引受権証券および新株予約権証券を含みます。）への投資割合には制限を設けません。外貨建資産への投資は行いません。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		合成指数		株組入比率	投資信託証券組入比率	純資産額
	円	騰落中率	(参考指数)	騰落中率			
4期(2018年5月14日)	12,175	12.2%	ポイント 131.28	% 9.9	% 52.4	% 44.7	百万円 35,857
5期(2019年5月14日)	11,964	△ 1.7	130.76	△ 0.4	46.5	50.9	26,560
6期(2020年5月14日)	11,281	△ 5.7	121.92	△ 6.8	47.1	49.3	16,459
7期(2021年5月14日)	15,162	34.4	161.88	32.8	42.5	53.7	16,944
8期(2022年5月16日)	15,747	3.9	164.93	1.9	42.8	53.2	14,821

(注) 基準価額は1万円当たり。

(注) 合成指数は当ファンドの参考指数であり、ベンチマークではありません。合成指数は、東証株価指数（TOPIX）（配当込み）50%および東証REIT指数（配当込み）50%を合成したものです。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準 価 額		合 成 指 数		株 組 入 比 率	投 資 信 託 組 入 比 率
	騰 落 率	騰 落 率	(参考指数)	騰 落 率		
(期 首) 2021年 5月14日	円 15,162	% —	ポイント 161.88	% —	% 42.5	% 53.7
5 月 末	15,543	2.5	166.48	2.8	42.2	54.3
6 月 末	16,041	5.8	170.80	5.5	42.7	55.2
7 月 末	15,957	5.2	169.58	4.8	42.5	55.4
8 月 末	16,102	6.2	172.13	6.3	44.0	53.5
9 月 末	16,102	6.2	173.09	6.9	43.6	52.2
10月 末	16,231	7.1	172.94	6.8	52.1	44.0
11月 末	15,756	3.9	166.33	2.7	53.5	44.3
12月 末	16,301	7.5	172.13	6.3	43.0	53.6
2022年 1月 末	15,584	2.8	163.39	0.9	43.3	53.0
2 月 末	15,274	0.7	160.66	△0.8	53.0	42.9
3 月 末	16,128	6.4	169.79	4.9	50.2	43.9
4 月 末	15,873	4.7	166.82	3.1	52.2	44.2
(期 末) 2022年 5月16日	15,747	3.9	164.93	1.9	42.8	53.2

(注) 騰落率は期首比。

## 運用経過

### 期中の基準価額等の推移

(2021年5月15日～2022年5月16日)



(注) 参考指数は、合成指数です。

(注) 参考指数は、期首(2021年5月14日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

### ○基準価額の主な変動要因

当ファンドにおける主なプラス要因およびマイナス要因は以下の通りです。

#### (主なプラス要因)

##### (国内株式)

- ・日本電信電話、日本郵船、日立製作所などへの投資。

##### (J-REIT)

- ・大和ハウスリート投資法人、ヘルスケア&メディカル投資法人、日本ビルファンド投資法人などへの投資。

#### (主なマイナス要因)

##### (国内株式)

- ・ヤマトホールディングス、エクシオグループ、リログroupなどへの投資。

##### (J-REIT)

- ・アクティビア・プロパティーズ投資法人、ユナイテッド・アーバン投資法人、サンケイリアルエステート投資法人などへの投資。

## 投資環境

(2021年5月15日～2022年5月16日)

国内株式市場は、2021年8月中旬までは国内上場企業の業績回復が上昇要因となる一方、緊急事態宣言の発出が続いていたことなどが上値を抑え、一進一退の展開となりました。9月には菅首相が自民党総裁選への不出馬を表明したことが契機となって上昇しましたが、その後は中国の大手不動産企業の資金繰りを巡る懸念や新型コロナウイルスの新たな変異株であるオミクロン株の発見が上値を抑え、一進一退の動きが年末まで続けました。2022年に入ると米国の金融引き締め観測の強まりに加え、ウクライナ情勢の悪化を背景に大きく下落しました。3月にはまん延防止等重点措置が解除されたことから反発する局面もありましたが、上海での都市封鎖（ロックダウン）長期化を受けた中国の景気悪化懸念や米国企業の業績悪化懸念の影響を受けて、軟調な展開となりました。

J-REIT市場は、長期金利の低下などから2021年7月末にかけて上昇基調となりました。しかし8月に入ると国内での新型コロナウイルス感染拡大が止まらず、景気回復の遅れが意識されたことからもみ合う展開になりました。その後9月には、菅首相の退陣表明を受け新政権への期待からJ-REITより日本株を愛好する動きが強まったことからJ-REITは下落に転じました。2022年に入ると米国を中心にインフレ高進を受けた早期利上げ観測が強まり、大きく下落しました。3月中旬まではロシアによるウクライナ侵攻を受け、上値の重い展開が続きましたが、下旬には日銀が長期金利の上昇を抑え込む姿勢を示したことから反発し、新年度に入ると再び狭いレンジ内の動きとなりました。

## 当ファンドのポートフォリオ

(2021年5月15日～2022年5月16日)

銘柄選択ならびに資産配分に関して、りそなアセットマネジメント株式会社の投資助言を受けました。

資産配分に関しては、2021年10月から11月、2022年2月から4月までは株式への投資比率をJ-REIT比で概ね高めとする一方、2021年6月から9月、12月、2022年1月は株式への投資比率をJ-REIT比で概ね低めとしました。

国内株式では、引き続き社会インフラに貢献する企業に注目し、物流施設やデータセンターを手掛ける不動産株や関連する情報・通信株などを組み入れました。また、主要国の経済活動の正常化に伴い、商品市況の上昇や自動車生産の回復が見込まれることから、卸売株や自動車株を組み入れました。また、株主還元強化や配当利回りに注目した金融株を買い増しました。一方、業績のピークアウトが懸念された半導体、電子部品株や電気機器株などを売却しました。

J-REITでは、相対的に高水準の配当金の確保を図りつつ、長期的な値上がり益の確保を目指して運用を行いました。2021年9月頃まではコロナ禍の中でも成長力の高い物流系リート銘柄の組入比率を引き上げました。10月以降はインフレによる金利上昇が懸念されたことから、物流系リート銘柄の組入比率を引き下げ、経済活動の正常化の恩恵を受ける商業やホテル系のリート銘柄の組入比率を引き上げました。

## 当ファンドのベンチマークとの差異

(2021年5月15日～2022年5月16日)

当ファンドは特定のベンチマークを設けておりませんが、基準価額の騰落率は、参考指数（東証株価指数（TOPIX）（配当込み）50%および東証REIT指数（配当込み）50%を合成した指数）の騰落率を2.0%上回りました。詳細につきましては、前掲の「基準価額の主な変動要因」をご参照ください。

## 今後の運用方針

国内株式市場は、調整圧力がかかりやすい環境になると見えています。米国では、2022年3月に開始された利上げが今後も継続される見通しです。加えて、米連邦準備制度理事会（FRB）は近々バランスシートの縮小に着手すると見られます。こうしたインフレ抑制のための金融引き締めは、景気や企業業績の成長鈍化、金利の上昇を通じた株価バリュエーションへの下押し圧力、金融市場の流動性縮小を通じたリスク資産の需給悪化といった副次的効果を伴うものと思われます。ただ、金融引き締めによるインフレ抑制は中長期的に均衡のとれた経済成長や、将来的な金融緩和期待につながると考えられますので、米国の金融引き締めを過度に悲観視する必要はないと思われます。当面は、経済や市場が均衡を取り戻し、株式市場が持続的な上昇基調に戻るまでの雌伏の期間と考えています。

J-R E I T市場は、地政学リスクや金利、為替動向など不透明要因が残るものの、堅調に推移すると予想します。ウクライナ情勢や急速な円安進行など、投資家心理の悪化によりJ-R E I Tが下落する場面もあると考えられます。ただ、J-R E I T全体で見ると海外情勢や為替動向による悪影響は限定的と見られる一方、国内の経済活動の再開による業績改善効果のほうが大きいと見えています。加えて、日銀は指値オペを基本的に毎営業日行う姿勢を示すなど金利上昇を強く抑え込む姿勢を示しています。そのため、低金利環境継続による不動産価格へのプラスの影響や、J-R E I Tの相対的な利回りの高さに注目した資金流入が見込まれるなど、堅調に推移すると予想します。

引き続き銘柄選択ならびに資産配分に関して、りそなアセットマネジメント株式会社の投資助言を受けます。

○1万口当たりの費用明細

(2021年5月15日～2022年5月16日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 ( 株 式 ) ( 投 資 信 託 証 券 )	円 21 (13) ( 8 )	% 0.132 (0.079) (0.052)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) そ の 他 費 用 ( そ の 他 )	0 ( 0 )	0.000 (0.000)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 その他は、金銭信託支払手数料
合 計	21	0.132	
期中の平均基準価額は、15,907円です。			

(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額において基準価額は円未満切捨て、その他は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2021年5月15日～2022年5月16日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
国 内	上 場	千株 2,963	千円 6,955,709	千株 3,047	千円 8,088,695

(注) 金額は受渡代金。

(注) 単位未満は切捨て。



インフラ関連好配当資産マザーファンド

投資信託証券

銘柄	柄	買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
		口	千円	口	千円
	エスコンジャパンリート投資法人 投資証券	166	22,660	205	28,133
	サンケイリアルエステート投資法人 投資証券	482	61,318	439	46,859
	S O S i L A 物流リート投資法人 投資証券	482	77,270	222	36,886
	東海道リート投資法人 投資証券	117	13,188	33	3,549
	日本アコモデーションファンド投資法人 投資証券	264	173,437	230	145,009
	森ヒルズリート投資法人 投資証券	1,187	177,374	—	—
	産業ファンド投資法人 投資証券	300	59,889	1,237	234,564
	アドバンス・レジデンス投資法人 投資証券	230	82,087	392	138,775
	ケネディクス・レジデンシャル・ネクスト投資法人 投資証券	450	96,769	565	124,957
	アクティビア・プロパティーズ投資法人 投資証券	118	52,274	641	268,771
	G L P 投資法人 投資証券	734	133,345	825	153,216
	コンフォリア・レジデンシャル投資法人 投資証券	184	60,568	108	35,715
	日本プロロジスリート投資法人 投資証券	459	169,699	489	178,924
	星野リゾート・リート投資法人 投資証券	91	59,584	116	79,237
	O n e リート投資法人 投資証券	220	64,441	83	25,532
	イオンリート投資法人 投資証券	595	91,222	730	109,563
	ヒューリックリート投資法人 投資証券	415	69,652	778	134,157
	日本リート投資法人 投資証券	109	43,362	154	64,819
	インバスコ・オフィス・ジェイリート投資法人 投資証券	3,535	80,347	7,400	167,900
	積水ハウス・リート投資法人 投資証券	247	20,922	1,783	148,097
	ケネディクス商業リート投資法人 投資証券	216	61,239	202	56,473
	ヘルスケア&メディカル投資法人 投資証券	429	65,362	335	50,819
	サムティ・レジデンシャル投資法人 投資証券	263	33,464	293	34,385
	野村不動産マスターファンド投資法人 投資証券	982	160,075	1,329	214,540
	ラサールロジポート投資法人 投資証券	144	25,623	756	142,872
	スターアジア不動産投資法人 投資証券	505	30,669	807	47,546
	三井不動産ロジスティクスパーク投資法人 投資証券	97	56,303	145	85,124
	三菱地所物流リート投資法人 投資証券	92	42,578	113	53,723
	CREロジスティクスファンド投資法人 投資証券	311	65,161	489	106,581
	ザイマックス・リート投資法人 投資証券	57	6,896	66	7,995
	伊藤忠アドバンス・ロジスティクス投資法人 投資証券	31	5,331	355	57,076
	日本ビルファンド投資法人 投資証券	432	294,794	421	289,943
	ジャパンリアルエステイト投資法人 投資証券	312	207,596	408	262,549
	日本都市ファンド投資法人 投資証券	1,223	124,977	1,951	202,111
	オリックス不動産投資法人 投資証券	1,234	213,293	1,212	222,895
	日本プライムリアルティ投資法人 投資証券	147	59,881	441	175,985
	N T T 都市開発リート投資法人 投資証券	375	57,063	727	111,318
	東急リアル・エステート投資法人 投資証券	687	134,681	398	77,792
	グローバル・ワン不動産投資法人 投資証券	—	—	535	62,924
	ユナイテッド・アーバン投資法人 投資証券	705	101,841	906	133,005
	インヴェンシブル投資法人 投資証券	1,078	43,504	1,166	46,739
	フロンティア不動産投資法人 投資証券	151	77,203	204	99,214
	平和不動産リート投資法人 投資証券	595	93,038	435	68,148
	福岡リート投資法人 投資証券	290	47,943	397	66,982
	ケネディクス・オフィス投資法人 投資証券	322	225,068	171	126,414
	いちごオフィスリート投資法人 投資証券	308	26,290	386	34,399
	スターツプロシード投資法人 投資証券	66	15,455	96	22,637
	大和ハウスリート投資法人 投資証券	591	192,800	575	190,993
	ジャパン・ホテル・リート投資法人 投資証券	1,554	94,851	1,448	90,359

インフラ関連好配当資産マザーファンド

銘柄		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
国内	大和証券リビング投資法人 投資証券	556	62,768	785	90,402
	ジャパンエクセレント投資法人 投資証券	56	8,754	279	38,951
	タカラレーベン・インフラ投資法人 投資証券	74	8,837	123	15,057
	いちごグリーンインフラ投資法人 投資証券	47	3,154	82	5,629
	カナディアン・ソーラー・インフラ投資法人 投資証券	82	10,245	18	2,257
合 計		24,397	4,266,170	34,484	5,418,527

(注) 金額は受渡代金。

(注) 単位未満は切捨て。

○株式売買比率

(2021年5月15日～2022年5月16日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	15,044,405千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	7,364,106千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	2.04

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

○利害関係人との取引状況等

(2021年5月15日～2022年5月16日)

利害関係人との取引状況

区 分	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
株式	百万円 6,955	百万円 511	% 7.3	百万円 8,088	百万円 1,528	% 18.9
投資信託証券	4,266	614	14.4	5,418	971	17.9

売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売買委託手数料総額 (A)	20,773千円
うち利害関係人への支払額 (B)	3,191千円
(B) / (A)	15.4%

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とは岡三証券です。

○組入資産の明細

(2022年5月16日現在)

国内株式

銘柄	期首(前期末)	当 期 末	
	株 数	株 数	評 価 額
	千株	千株	千円
<b>建設業 (4.5%)</b>			
ウエストホールディングス	—	18.7	89,012
ショーボンドホールディングス	47.7	23.8	131,138
エクシオグループ	64.9	30	62,550
<b>化学 (9.1%)</b>			
信越化学工業	18.3	18	323,370
積水化学工業	—	55.6	93,018
富士フイルムホールディングス	32	22.7	160,670
<b>ゴム製品 (—%)</b>			
TOYO TIRE	77.4	—	—
<b>ガラス・土石製品 (—%)</b>			
日東紡績	18.8	—	—
<b>機械 (5.2%)</b>			
ディスコ	2.2	—	—
SMC	1.8	2.6	164,788
クボタ	131.7	29.5	67,230
ダイキン工業	5.1	4.8	99,408
ダイフク	7	—	—
<b>電気機器 (15.7%)</b>			
イビデン	56.4	13.4	63,382
日立製作所	69.7	54.1	347,808
富士電機	29.7	45.2	256,284
TDK	4.9	—	—
キーエンス	2.1	3.7	189,921
ローム	14	14.2	135,610
村田製作所	17.1	—	—
東京エレクトロン	6.2	—	—
<b>輸送用機器 (6.6%)</b>			
豊田自動織機	25.7	24.9	202,935
デンソー	—	20.7	152,931
いすゞ自動車	—	43	65,231
<b>陸運業 (10.9%)</b>			
京阪ホールディングス	—	58.1	175,171
ヤマトホールディングス	122.3	107.1	260,895
センコーグループホールディングス	289.3	295.4	254,634
<b>海運業 (2.0%)</b>			
日本郵船	—	13.2	128,172

銘柄	期首(前期末)	当 期 末		
	株 数	株 数	評 価 額	
	千株	千株	千円	
<b>情報・通信業 (13.3%)</b>				
NECネットエスアイ	—	73.4	131,679	
野村総合研究所	88.5	34.8	115,188	
オービック	—	8.5	163,625	
Zホールディングス	137.7	—	—	
電通国際情報サービス	—	26.3	107,567	
日本電信電話	120	85	323,510	
<b>卸売業 (8.7%)</b>				
シップヘルスケアホールディングス	73.1	—	—	
伊藤忠商事	95.1	49.8	175,943	
豊田通商	—	27.9	123,876	
三井物産	115.3	82.7	250,994	
<b>小売業 (2.1%)</b>				
コスモス薬品	11	—	—	
日本瓦斯	78.7	69.5	130,590	
<b>銀行業 (7.5%)</b>				
三菱UFJフィナンシャル・グループ	—	386.4	281,646	
三井住友フィナンシャルグループ	94.6	49.8	194,319	
<b>証券、商品先物取引業 (2.0%)</b>				
SBIホールディングス	50.5	—	—	
大和証券グループ本社	—	204.5	125,685	
野村ホールディングス	505.8	—	—	
<b>保険業 (4.0%)</b>				
東京海上ホールディングス	50.4	37.3	255,579	
<b>その他金融業 (2.4%)</b>				
オリックス	—	68.7	154,815	
<b>不動産業 (6.0%)</b>				
東急不動産ホールディングス	—	144.6	94,713	
シーアールイー	—	60.9	89,401	
三井不動産	—	72.5	195,278	
合 計	株 数・金 額	2,465	2,381	6,338,577
	銘柄数<比率>	34	38	<42.8%>

(注) 銘柄欄の( )内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注) 合計欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

国内投資信託証券

銘柄	期首(前期末)		当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額	比 率
	口	口	千円	%
エスコンジャパンリート投資法人 投資証券	500	461	59,238	0.4
サンケイリアルエステート投資法人 投資証券	180	223	21,207	0.1
S O S i L A 物流リート投資法人 投資証券	328	588	89,846	0.6
東海道リート投資法人 投資証券	—	84	9,685	0.1
日本アコモデーションファンド投資法人 投資証券	325	359	231,555	1.6
森ヒルズリート投資法人 投資証券	—	1,187	174,489	1.2
産業ファンド投資法人 投資証券	1,495	558	103,955	0.7
アドバンス・レジデンス投資法人 投資証券	830	668	231,462	1.6
ケネディクス・レジデンシャル・ネクスト投資法人 投資証券	985	870	182,091	1.2
アクティビア・プロパティーズ投資法人 投資証券	523	—	—	—
G L P 投資法人 投資証券	2,403	2,312	393,502	2.7
コンフォリア・レジデンシャル投資法人 投資証券	228	304	98,648	0.7
日本プロロジスリート投資法人 投資証券	1,300	1,270	440,690	3.0
星野リゾート・リート投資法人 投資証券	221	196	135,828	0.9
O n e リート投資法人 投資証券	134	271	73,739	0.5
イオンリート投資法人 投資証券	1,361	1,226	182,796	1.2
ヒューリックリート投資法人 投資証券	1,189	826	130,755	0.9
日本リート投資法人 投資証券	364	319	116,913	0.8
インベスコ・オフィス・ジェイリート投資法人 投資証券	3,865	—	—	—
積水ハウス・リート投資法人 投資証券	1,536	—	—	—
ケネディクス商業リート投資法人 投資証券	479	493	132,567	0.9
ヘルスケア&メディカル投資法人 投資証券	823	917	146,444	1.0
サムティ・レジデンシャル投資法人 投資証券	689	659	87,053	0.6
野村不動産マスターファンド投資法人 投資証券	2,836	2,489	408,942	2.8
ラサールロジポート投資法人 投資証券	1,237	625	110,812	0.7
スターアジア不動産投資法人 投資証券	1,819	1,517	88,896	0.6
三井不動産ロジスティクスパーク投資法人 投資証券	350	302	164,288	1.1
三菱地所物流リート投資法人 投資証券	274	253	115,621	0.8
C R E ロジスティクスファンド投資法人 投資証券	533	355	69,757	0.5
ザイマックス・リート投資法人 投資証券	129	120	14,592	0.1
伊藤忠アドバンス・ロジスティクス投資法人 投資証券	324	—	—	—
日本ビルファンド投資法人 投資証券	801	812	557,032	3.8
ジャパンリアルエステイト投資法人 投資証券	624	528	336,336	2.3
日本都市ファンド投資法人 投資証券	3,687	2,959	304,777	2.1
オリックス不動産投資法人 投資証券	1,737	1,759	312,750	2.1
日本プライムリアルティ投資法人 投資証券	622	328	127,920	0.9
N T T 都市開発リート投資法人 投資証券	1,181	829	123,355	0.8
東急リアル・エステート投資法人 投資証券	393	682	126,442	0.9
グローバル・ワン不動産投資法人 投資証券	535	—	—	—
ユナイテッド・アーバン投資法人 投資証券	1,827	1,626	233,656	1.6
インヴィンシブル投資法人 投資証券	2,130	2,042	86,887	0.6
フロンティア不動産投資法人 投資証券	468	415	207,915	1.4
平和不動産リート投資法人 投資証券	735	895	131,296	0.9
福岡リート投資法人 投資証券	847	740	119,140	0.8
ケネディクス・オフィス投資法人 投資証券	171	322	217,994	1.5

インフラ関連好配当資産マザーファンド

銘	柄	期首(前期末)	当 期 末		
		口 数	口 数	評 価 額	比 率
		口	口	千円	%
いちごオフィスリート投資法人	投資証券	850	772	65,079	0.4
スターツプロシード投資法人	投資証券	232	202	47,651	0.3
大和ハウスリート投資法人	投資証券	1,138	1,154	368,126	2.5
ジャパン・ホテル・リート投資法人	投資証券	2,863	2,969	199,219	1.3
大和証券リビング投資法人	投資証券	1,782	1,553	178,129	1.2
ジャパンエクセレント投資法人	投資証券	223	—	—	—
タカラレーベン・インフラ投資法人	投資証券	410	361	40,359	0.3
いちごグリーンインフラ投資法人	投資証券	328	293	21,037	0.1
カナディアン・ソーラー・インフラ投資法人	投資証券	439	503	62,573	0.4
合 計	口 数 ・ 金 額	51,283	41,196	7,883,058	
	銘 柄 数 < 比 率 >	52	48	< 53.2% >	

(注) 合計欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

○投資信託財産の構成

(2022年5月16日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	6,338,577	42.8
投資証券	7,883,058	53.2
コール・ローン等、その他	599,702	4.0
投資信託財産総額	14,821,337	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

インフラ関連好配当資産マザーファンド

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2022年5月16日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	14,821,337,737
コール・ローン等	426,259,359
株式(評価額)	6,338,577,560
投資証券(評価額)	7,883,058,400
未収配当金	173,442,418
(B) 負債	2,157
未払利息	444
その他未払費用	1,713
(C) 純資産総額(A-B)	14,821,335,580
元本	9,411,874,815
次期繰越損益金	5,409,460,765
(D) 受益権総口数	9,411,874,815口
1万口当たり基準価額(C/D)	15,747円

- (注) 計算期間末における1口当たりの純資産額は、1,5747円です。
- (注) 当ファンドの期首元本額は11,175,481,017円、期中追加設定元本額は609,026,924円、期中一部解約元本額は2,372,633,126円です。
- (注) 当親ファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本額は、以下の通りです。
- インフラ関連好配当資産ファンド(毎月決算型)(米ドル投資型)  
5,594,370,980円
- インフラ関連好配当資産ファンド(毎月決算型)(円投資型)  
2,343,461,655円
- インフラ関連好配当資産ファンド(毎月決算型)(豪ドル投資型)  
1,474,042,180円

○損益の状況 (2021年5月15日～2022年5月16日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	489,810,220
受取配当金	489,778,433
受取利息	2,853
その他収益金	137,647
支払利息	△ 108,713
(B) 有価証券売買損益	207,024,885
売買益	1,154,484,873
売買損	△ 947,459,988
(C) その他費用等	△ 38,079
(D) 当期損益金(A+B+C)	696,797,026
(E) 前期繰越損益金	5,768,822,037
(F) 追加信託差損益金	357,562,876
(G) 解約差損益金	△1,413,721,174
(H) 計(D+E+F+G)	5,409,460,765
次期繰越損益金(H)	5,409,460,765

- (注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。
- (注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定した価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
- (注) 損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

<お知らせ>

該当事項はございません。